

発見率はバリウムの3倍、鼻から入
—診てもらうなら「神の手」に

医師が選んだ 「胃カメラ」の名医120人



川田医師(静岡)



伊藤医師(大阪)



長南医師(宮城)



川田医師(香川)



吉田医師(東京)



吉田医師(東京)



吉田医師(東京)

れて苦しくない

全国 120人

上手いか
下手かで
天国と地獄

●長南明道・仙台厚生病院
院長(宮城・仙台)
長南医師が院長を務める
仙台厚生病院は、胃の内視
鏡検査で年1万2000件、
高度な技術を要するESD
治療(※)は年374件で
国内3位の実績を誇る。
内視鏡室の6つのブース
で長南医師ら7人の内視鏡
指導医、5人の専門医らが
検査を行なう。各ブースの
検査画像はマルチ画面に表
示され、指導医の目が光る。
「当院では内視鏡検査を行
なった医師と別の医師が、
受診者への説明を担当しま
す。効率性を高めること、
画像のダブルチェックとい

「口から」より「鼻から」のほうが楽

を受けた内視鏡検査を最大
5人まで挙げる「アンケート

トを実施。それを基に抽出
した、全国の内視鏡名医1

20人を一挙掲載する。そ
のうち5人を密着取材した

う二つの目的があります」
長南医師も若手に混じっ
て毎週、検査を行なう。
「高度な治療や拡大観察が
可能な最新式の経口内視鏡
を使います。ただ、経口は
苦しくなる受診者が多く、
8割の方にセデーション
(静脈麻酔で意識がぼーとな
る状態)で検査をします」
実は検査時の麻酔事故は
各地で発生している。その
ため、同病院では検査後も
看護師が常時観察する等、
安全対策を徹底している。

●吉田行哉・三宿病院消化
器科部長(東京・目黒)

年4689件の内視鏡検
査を行なう三宿病院。ESD
治療なども4人の少数精
鋭スタッフで対応している。

吉田医師は経鼻内視鏡が
ベストの選択だとする。
「胃がん発見率(ハリス
ク群対象)のデータを取っ
たら、経口内視鏡「3・1
3%」、経鼻内視鏡「2・

「経口の経験者は、経鼻の
楽さをもっと実感できま
す」と吉田医師は応じた。
●川田和昭・静岡赤十字病
院経鼻内視鏡センター長
(静岡)
「モニター画面を見てくだ

あれ? 「オエツ!」とならない

来年4月から自治体の胃がん検診で、バリウム検査に加え「胃カメラ(内
視鏡)」による検査が導入されようとしている。バリウムより負担は軽く、
発見率は高い。今回は専門医に「自分が検査を受けた医師」を取材し、胃
カメラの名医リストを作成。話題の新聞「バリウム検査は危ない」(小社刊)
の著者・岩澤倫彦氏(ジャーナリスト)がレポートする。

年間5万人近い人の命を
奪う胃がんは、早い段階でス
クリーニングで見つければ9
割以上が完治できる。早期
発見を実現するため、来年
4月から自治体の「胃がん
検診」で内視鏡検査(胃カ
メラ)がバリウム検査と選
択制で導入され、内視鏡の
場合、検査の間隔は「年に
一度」ではなく「2年に一
度」になる見込みだ。

メリットは様々ある。内
視鏡検査はバリウム検査よ
り3倍以上も発見率が高い。
検査に要する時間は5〜10
分程度で済むし、発泡剤や
不味いバリウムを飲んでゲ
ップを我慢し、その排泄の
ために下剤を飲んだりする
負担もなくなる。
その内視鏡検査には様々
な誤解もあるので、経鼻内

視鏡検査はバリウム検査より3倍以上も発見率が高い。検査に要する時間は5〜10分程度で済むし、発泡剤や不味いバリウムを飲んでゲップを我慢し、その排泄のために下剤を飲んだりする負担もなくなる。その内視鏡検査には様々な誤解もあるので、経鼻内視鏡検査の第一人者・川田和昭医師の監修した、重要なポイントを紹介する。
●ポイント①「つらい内視鏡」は過去の遺物
「オエツ!」となった経験を持つ人は少なくない。それは口から内視鏡を入れて舌の奥の部分(舌根部)を刺激し、咽頭反射と呼ばれる反応が起きたからだ。それを解決するのが、鼻から挿入する経鼻内視鏡。経口よりも細い内視鏡(直径5・4〜5・9mm)を鼻から通すと、舌根部に触れないので苦しくならないのだ。
●ポイント②「口から」と「鼻から」の画質は同等
「経鼻内視鏡は画質が悪いので経口を使用する」と説明する内視鏡医は意外に多いが、それも過去の話。

約4年前に出た新機種からは、経鼻と経口の画質、解像度は同等になっている。
●ポイント③ 内視鏡の技術格差は極めて大きい
医師免許があれば誰でも内視鏡を使えるが、胃がん発見の技術認定を受けているのは消化器内視鏡学会の専門医だ。内視鏡医選びを間違えると、見落としの可能性があります。ええ。
「日本消化器内視鏡学会の専門医/指導医」などが選ぶ目安となるが、信頼できる内視鏡医を探すのは簡単ではない。そこで取材班は、内視鏡専門医への聞き取り、10月に東京で開かれた日本消化器病関連学会で上村直実・国立国際医療研究センター国府台病院院長をはじめ専門医30人に「自分が検査

※ESD治療/胃粘膜層に留まる早期がんを、内視鏡の高周波のITナイフで、粘膜ごと剝離して切除する治療法。

専門医が推薦する胃カメラの名医120人

都道府県	医師名	勤務先	病院住所	電話番号	コメント
東京	荻原章史	おぎはろ内科クリニック	北区西ヶ原1-50-1メディエルトタウン2F	03-5961-6200	◆東京・駒込の荻原医師は、駿河台大病院の内視鏡室長を歴任。経口と経鼻内視鏡を使い分ける。
	貝瀬 清	虎の門病院 消化器内科	港区虎ノ門2丁目2番2号	03-3588-1111	◆東京・国立がん研究センターの角川医師は、内視鏡のスペシャリストとして、胃がん早期発見の技術開発にも取り組む。
	角川康夫	国立がん研究センター中央病院 内視鏡科・内視鏡センター	中央区築地5-1-1	03-3542-2511	◆神奈川・桜沢医師は、胃内視鏡検査数1万例以上。早期胃がん発見に尽くす。
	倉持 章	住吉内科・消化器内科クリニック	江東区鶴江2-16-5 住吉メディカルモール3F	03-5638-1241	◆神奈川・松岡医師は、横須賀の自治体初の胃がんリスク検診の全面導入に尽力。多くの命を救った内視鏡指導医。
	松川雅也	ちとせ内科クリニック	世田谷区千歳台5-18-10 千歳台第一（医療ビル）2F	03-3789-8855	
	横井千寿	国立国際医療研究センター 消化器内科	新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181	
	吉田行哉	三宿病院	目黒区上目黒5-33-12	03-3711-5771	
	遠藤智広	横浜栄共済病院 消化器内科	横浜市栄区桂町132番地	045-891-2171	
	木村正之	けいあいクリニック	横浜市保土ヶ谷区西谷町1018-2	045-370-5361	
	桜沢俊秋	さくらT'sクリニック	横浜市中区根岸町2-80-2	045-628-7985	
神奈川	松岡幹雄	中央内科クリニック	横須賀市若松町2-77ジタビル3F	046-822-6859	
	植木淳一	植木医院	新潟県上越市本町1-4-8	025-523-4381	◆新潟・山口医師は、経鼻内視鏡を6年前から導入している。新潟市の内視鏡検診を支える中心メンバー。
	山口正康	山口クリニック	新潟市北区早通北1-3-11	025-386-1131	◆富山・稲島医師の市立総合病院は、年間4000件超の検査を実施。
	渡辺俊明	内科・消化器科 わたなべ医院	三条市西本成寺1丁目38番45号	0256-36-7377	◆石川・金沢医療センターは、丸川医師ら4人の専門医が在籍。年間約3000件の胃内視鏡検査に対応する。
	稲島克久	市立砺波総合病院 内科	砺波市新富町1番61号	0763-32-3320	◆福井・東田医師の福井厚生病院は「安全・迅速」がポリシー。年間検査数は、9500件を超える。
	松田 充	富山県立中央病院 消化器内科	富山市西長江2丁目2番78号	076-424-1531	◆長野・佐久総合病院の小山医師はESD治療の先駆者として全国の内視鏡医を指導。高度な診断力で地域住民の命の砦となっている。
	鷹取 元	松任石川中央病院 消化器内科	白山市倉光3丁目8番地	076-275-2222	◆岐阜・三輪医師は、ハイビジョン内視鏡と極細経鼻内視鏡を使い分け、ボリーブ切除も日曜日に対応する。
	土山智也	ティーズ内科クリニック	金沢市松村4-308	076-255-1002	◆静岡・小野医師は、ESD治療に用いるITナビを開発した早期胃がん治療の貢献者。
	丸川洋平	国立病院機構 金沢医療センター 消化器科	金沢市下石引町1-1	076-262-4161	
	東田 元	福井厚生病院 内科・胃腸科	福井市下六条町201番地	0776-41-3377	
福井	奥脇 秀一郎	奥脇医院	富士吉田市下吉田859	0555-22-0129	
	越知泰英	長野市民病院 消化器内科	長野市大字富竹1333番地1	026-295-1199	
	小山恒男	佐久総合病院佐久医療センター 内視鏡内科	佐久市中込3400番地28	0267-62-8181	
	都甲昭彦	都甲クリニック	佐久市大字三塚191-36	0267-64-1050	
	三輪佳行	MIWA内科胃腸科CLINIC	岐阜市長良東3-3	058-231-3029	
	向井 強	岐阜市民病院 消化器内科	岐阜市鹿島町7丁目1番地	058-251-1101	
	小野裕之	静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科	駿東郡長泉町下長窪1007	055-989-5222	
	川田和昭	静岡赤十字病院 経鼻内視鏡センター	静岡市葵区追手町8番2号	054-254-4311	
	佐藤嘉彦	聖隷浜松病院 消化器内科	浜松市中区住吉2-12-12	053-474-2222	
	戸川昭三	中京病院 消化器内科	名古屋市中区三栄1-1-10	052-691-7151	

都道府県	医師名	勤務先	病院住所	電話番号	コメント
北海道	勝木伸一	小樽済済会病院 消化器病センター	小樽市色内1丁目10番17号	0134-24-0325	◆北海道・緑愛病院は、篠島医師を中心に年間3000例の検査を実施。高度な内視鏡治療にも対応。
	篠島文隆	札幌緑愛病院 内科	札幌市清田区北野1条1丁目6-30	011-883-0121	◆青森・沢田医師は、弘前市の胃がんリスク検診を実現。年間検査数は1800件超。
	前田 聡	札幌厚生病院 第一消化器内科	札幌市中央区北3条東8丁目5番地	011-261-5331	◆岩手・遠藤医師は、元岩手医大准教授。経鼻と経口の内視鏡を使い分け、全国の内視鏡医を指導する。
	沢田美彦	沢田内科医院	弘前市茂森新町1-6-4	0172-37-7755	◆宮城・加藤医師は、胃がん検診の第一人者として、多くの早期胃がんを発見。内視鏡の診断力に高い評価を受けている。
	松原 潔	ちようじの森内科クリニック	八戸市大字糠塚下道7-32	0178-43-6516	◆秋田・小田嶋医師は、長いキャリアで培った診断力と武器。日曜診療も行っている。
	遠藤昌樹	開運橋消化器内科クリニック	盛岡市大通3丁目9-3 菱和開運メディカルビル2F	019-613-3336	◆山形・今泉医師は、日本海総合病院で最先端の検査や治療に従事した経験を持つ。
	照井虎彦	照井内科消化器科医院	花巻市四日町3丁目5-8	0198-23-6100	◆福島・石田医師は、患者目線に立ち、経鼻内視鏡による苦痛の少ない検査を実施。
	加藤勝幸	宮城県対がん協会 がん検診センター	仙台市青葉区上杉5-7-30	022-263-1525	◆茨城・齋藤医師は、ピロリ菌感染を重視。女性らしい繊細さと経験に培われた高い診断力で、地域住民の命を守る。
	大原秀一	東北労災病院 消化器内科・消化器内視鏡センター	仙台市青葉区台原4丁目3-21	022-275-1111	◆群馬・乾医師は、胃がんリスク検診普及の功労者。多くの早期胃がんを発見した実績と理やかな人柄に、地域住民や医療関係者が深い信頼を寄せている。
	長南明道	仙台厚生病院・消化器内視鏡センター	仙台市青葉区広瀬町4-15	022-222-6181	◆埼玉・片山医師は、経鼻内視鏡の先駆者として多くの内視鏡医を育てている。じっくり丁寧な診断がモットー。
秋田	結城豊彦	結城クリニック	仙台市若林区上飯田字天神108-4	022-289-3322	◆千葉・矢田医師は、「天才」と評されるほどの診断力を持つ。所属の国府台病院には若手内視鏡医の精鋭たちが揃う。
	小田嶋 傑	小田嶋まさる内科	横手市横手町大字大関越174	0182-38-8951	
	小西永晃	こにし胃腸内科	大仙市福田町21-23-13	0187-88-8871	
	今泉和臣	今泉クリニック	酒田市若浜町5-29	0234-43-8108	
	大泉晴史	大泉胃腸科内科クリニック	山形市城西町5丁目21-15	023-643-9021	
	石田浩徳	いした内科	郡山市緑町1-6	024-922-3648	
	坪井正夫	郡山医療生活協同組合 薬野協立病院 内科・消化器内科	郡山市島2-9-18	024-933-5422	
	齋藤洋子	茨城東病院	那珂郡東海村照沼825	029-282-1151	
	仁平 武	水戸済生会総合病院 消化器内科	水戸市双葉台3-3-10	029-254-5151	
	富山 剛	あんずの森クリニック	下野市仁良川1518-1	0285-32-6601	
山形	堀江 徹	ほりえ医院	宇都宮市今泉町400-1	028-621-3616	
	乾 純和	乾内科クリニック	高崎市下小嶋町1635	027-343-3368	
	大和田 道	イムス太田中央総合病院 消化器外科	太田市東今泉町875番地1	0276-37-2378	
	小野里 康博	しらかわ診療所	前橋市上細井町2068-1	027-260-1116	
	有馬 美和子	埼玉県立がんセンター 消化器内科	北足立郡伊奈町大字小室780	048-722-1111	
	片山 修	埼玉県済生会栗橋病院 検査科	久喜市小右衛門714-6	0480-52-3611	
	多田智裕	ただとむろ胃腸科肛門科	さいたま市南区別所7-2-1武蔵浦和メディカルセンター 202	048-837-9333	
	磯野貴史	いそのメディカルクリニック	千葉市中央区新町17-3 ハマダパークビル3階	043-310-3030	
	萩原 徹	はぎわら内科クリニック	船橋市前原西2-33-11	047-472-1002	
	矢田智之	国立国際医療研究センター・国府台病院 第一消化器科	市川市国府台1-7-1	047-372-3501	

さい。こんな風に胃の中が赤く、むくんでいるのは、ピロリ菌（説明は後述）の影響ですよ」

「それじゃ先生、ピロリ菌退治はしたほうがいい？」

「当然です」

2007年に経鼻内視鏡センターを設立した川田和昭医師は、検査中ずっと受診者と会話をしている。

口からの内視鏡では絶対にあり得ない光景だ。

「検査中にリアルタイムで説明すると、よく理解してもらえます。受診者がリラックスしていると、医師も落ち着いて観察できる」

他の医師による経鼻内視鏡は苦しかったが、川田医師の場合は全く平気だったという受診者が少なくない。それには独自の工夫がある。

「検査前の前処置が大切で、麻酔をかけて、すぐに内視鏡を入れたら鼻は狭いままなので、受診者に苦痛を与えます。当院では鼻腔内が約3倍に広がる15分後に内視鏡を入れていきます」

苦しくない経鼻内視鏡は口コミで広がり、川田医師ら4人で年間の検査数は4000件超。リピーターが多いのが特徴だ。

「経鼻内視鏡は経口に劣る、と誤解している医師が多い。早期発見に必要なのは、必ず胃の40か所を確認するルーチンと、僅かな変化を捉える目。いわゆる診断能です。今年は2例、早期のスキルを発見しています」

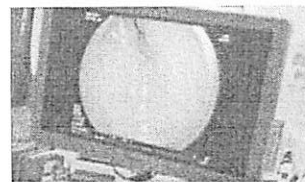
北海道からも受診者が訪れ、検査の予約は4か月先まで埋まっている。

●伊藤正祐・伊藤クリニック院長（大阪）

関西では最も早く経鼻内視鏡を導入した、元外科医の伊藤院長。独自の工夫で患者の負担を軽減する。

「検査前に内視鏡で左右の鼻腔のどちらが広いか確認してから、麻酔をかけます。こうした一手間で、受診者の負担は軽くなるんです」

数多くの外科手術の経験から麻酔事故の恐ろしさを実感、セデーションの必要性がない経鼻内視鏡が検診の方法として相応しいと話す。



モニターには胃の内部が映し出される